

平成22年国勢調査  
町丁別昼間人口  
推計結果報告書

平成25年3月  
総合政策部政策審議室  
情勢分析グループ

# 目次

1. はじめに	1
2. 推計手法	2
3. 推計結果	
(1) 昼間人口	3
(2) 昼夜間人口比率	5
(3) 推計からみる本市の都市機能分類	7
4. 用語の解説	9

## 1. はじめに

国勢調査では、居住する場所（常住地）で集計した統計のほか、通勤・通学先（従業地・通学地）で集計した統計も作成される。

常住地による人口は、人が寝泊まりする場所での人口となるため、「夜間人口」とも呼ばれる。また、従業地・通学地による人口は、昼間に活動している場所での人口となるので、「昼間人口」とも呼ばれる。

昼間人口は、調査事項のひとつである「従業地又は通学地」を用いて市区町村別に集計・公表されている。

昼間人口は、以下のように算出されている。

$$\begin{aligned} \text{昼間人口} &= \text{夜間人口} - (\text{該当市区町村から他の市区町村へ通勤・通学している人}) \\ &\quad + (\text{他の市区町村から該当市区町村へ通勤・通学している人}) \end{aligned}$$

昼間人口に関する統計は、上下水道等の公共的施設の整備や供給計画、交通体系の整備、経済機能の分析等、様々な方面で利用されているが、市区町村レベルでの集計にとどまっていることから、他の基幹統計調査結果を基に町丁別昼間人口の推計を行い、本市の都市機能等の分析を試みた。

## 2. 推計手法

### (1) 推計に用いた基幹統計調査について

昼間人口は、「就業者」「就学者」「未就業・非就学者」の3通りに分類される。

推計にあたっては、以下の基幹統計調査の集計結果を用いた。

- ①平成 21 年経済センサス基礎調査
- ②平成 22 年学校基本調査
- ③平成 22 年国勢調査

### (2) 小地域別昼間人口の推計

#### 1) 就業者の推計

従業地・通学地集計結果で確定した「本市を就業地とする産業別就業者総数」を平成 21 年経済センサス基礎調査の町丁別集計結果で按分して推計。

ただし、農林業・漁業就業者は、全てが自宅で就業しているとみなし、国勢調査の常住地による町丁別就業者数で按分した。

#### 2) 就学者の推計

従業地・通学地集計結果で確定している「本市を就学地とする就学者総数（15 歳未満を含む）」を学校基本調査による学校別在学者数から按分して推計。

ただし、幼稚園児は国勢調査と同様、未就学扱いとしている。

#### 3) 未就業者・未就学者の推計

##### ①基本手法

未就業・未就学者の総数（昼間人口－市内就業者－市内就学者）を町丁別の夜間人口から常住地による 15 歳以上の就業・就学人口と 6 歳～14 歳人口を差し引いた結果で按分して推計した。

ただし、6 歳～14 歳人口については、5 歳人口と 6 歳人口に関して別途推計が必要となることから、その手法について後述する。

##### ②5 歳人口と 6 歳人口の推計

町丁別年齢別人口は 5 歳階級別に集計されていることから、未就学の 5 歳人口と 6 歳人口の半数を推計して除外する必要がある。

具体的には、町丁別の 5 歳～9 歳人口（国勢調査確定値）を住民基本台帳の町丁別各年齢別人口（平成 22 年 9 月末日）で按分して推計した。

### 3. 推計結果

#### (1) 昼間人口

平成22年10月1日現在の小地域別昼間人口の推計結果は、表1、表2及び図1の通りである。

図1は昼間人口を人口区分ごとに色分けして表現したものである。昼間人口5,000人超の町丁は18あるが、国道4号線や宇都宮環状線及び主要県道に沿った郊外に存している。

清原工業団地、平出工業団地、一の沢1丁目、峰町などは夜間人口に比して昼間人口の増加が著しい。通勤や通学などでの移動も含め昼間、その地域にいる人口なので、事業所や学校などが多く集まる町丁で昼間人口が多くなっていると考えられる

一方で、元々の夜間人口が大きい町丁が上位の大半を占めており、必ずしも事業所や学校などが多く集まる町丁で昼間人口が多いとは限らないことから、次に昼夜間人口比率の視点から分析した。

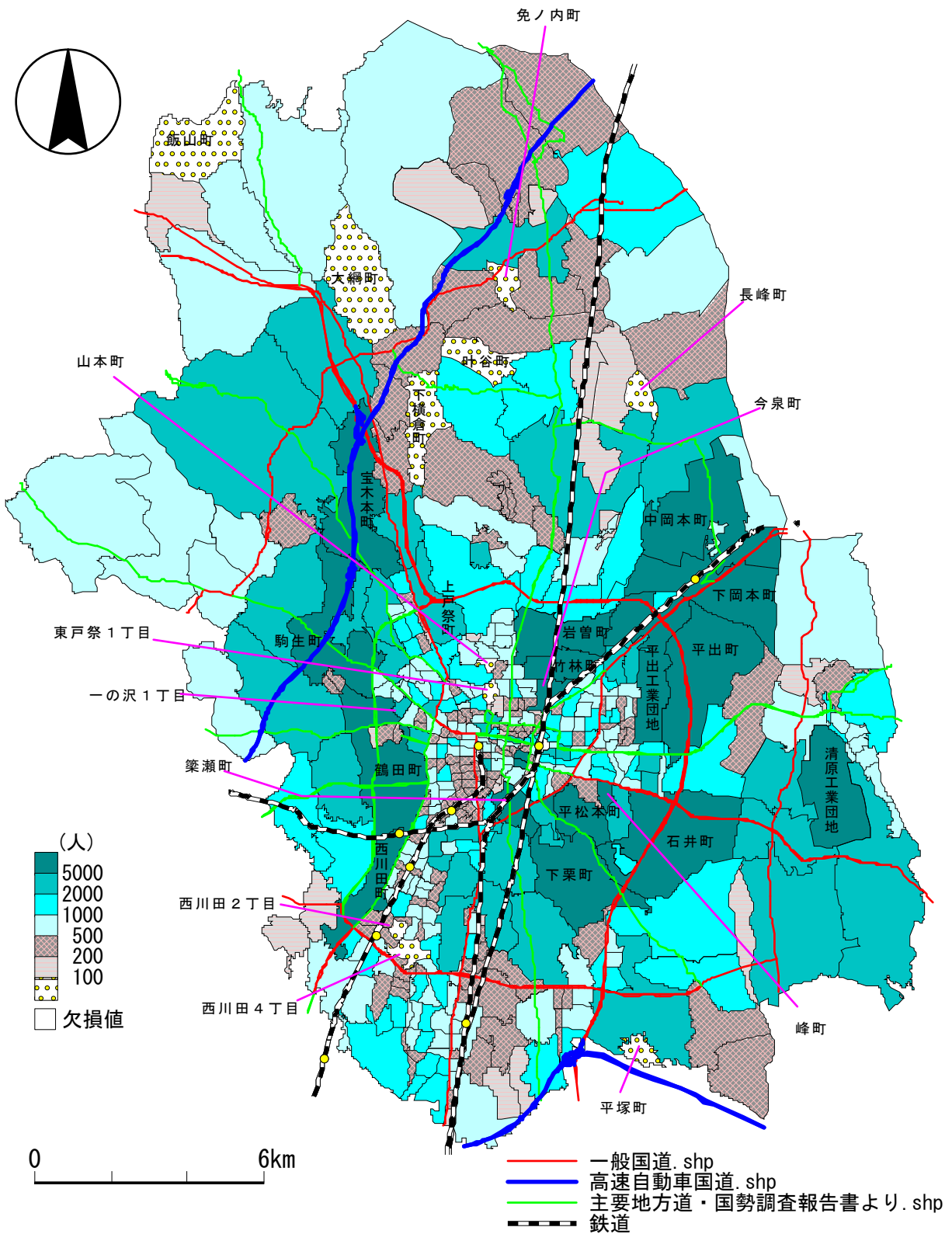
表1 平成22年町丁別昼間人口（上位・下位 各20町）

ランク	町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口変動数	ランク	町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口変動数
1	鶴田町	16,571	21,013	△ 4,442	466	下河原1丁目	125	297	△ 172
2	清原工業団地	14,148	0	14,148	467	下横田町	125	210	△ 85
3	平出工業団地	10,325	22	10,303	468	宮町	123	110	13
4	石井町	9,360	10,712	△ 1,352	469	古田町	122	214	△ 92
5	中岡本町	7,632	9,134	△ 1,502	470	桑島町	114	185	△ 71
6	駒生町	7,042	10,520	△ 3,478	471	満美穴町	104	116	△ 12
7	下岡本町	6,808	9,685	△ 2,877	472	御蔵町	103	136	△ 33
8	御幸ヶ原町	6,780	9,617	△ 2,837	473	東戸祭1丁目	89	38	51
9	平出町	6,549	4,174	2,375	474	平塚町	80	131	△ 51
10	下栗町	6,417	7,599	△ 1,182	475	西川田4丁目	72	0	72
11	今泉町	6,354	4,608	1,746	476	飯山町	71	122	△ 51
12	岩菅町	6,155	6,406	△ 251	477	西川田2丁目	60	83	△ 23
13	西川田町	5,640	7,230	△ 1,590	478	長峰町	57	99	△ 42
14	宝木本町	5,431	6,252	△ 821	479	下河原町	52	17	35
15	平松本町	5,348	9,765	△ 4,417	480	大網町	51	105	△ 54
16	竹林町	5,278	3,603	1,675	481	下横倉町	46	109	△ 63
17	築瀬町	5,108	3,601	1,507	482	免ノ内町	45	128	△ 83
18	峰町	5,063	1,997	3,066	483	叶谷町	40	74	△ 34
19	一の沢1丁目	4,824	138	4,686	484	山本町	2	8	△ 6
20	上戸祭町	4,423	6,273	△ 1,850	485	みやみらい	0	0	0
						計	535,317	511,739	23,578

表2 町丁別昼間人口区分別構成

昼間人口	町丁数	割合(%)
5000人超	18	3.7
2000～4999人	44	9.1
1000～1999人	80	16.5
500～999人	155	31.9
200～499人	148	30.5
100～199人	27	5.6
100人未満	13	2.7

図1 平成22年 町丁別昼間人口



(2) 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率とは、夜間人口(常住人口)100人に対する昼間人口の割合である。これが100を超えるということは、昼間の方が夜間より人が多いことを意味しており、区域外からその区域に通勤通学してくる人が、その区域から区域外に通勤通学していく人より多いことを示している。逆に100を下回るといことは、昼間の方が夜間より人が少ないことを意味しており、区域外からその区域に通勤通学してくる人が、その区域から区域外に通勤通学していく人より少ないことを示している。

平成22年10月1日現在の本市の小地域別昼夜間人口比率の推計結果は、表3、表4及び図2、図3のとおりである。

表3は、昼夜間人口比率の数値区分別構成を表したものである。昼夜間人口比率が100を超える町丁は38.4%、100を下回る町丁は60.6%となっており、夜間人口よりも昼間人口が少ない町丁が多くなっている。夜間人口に比して昼間人口が5倍以上となる(昼夜間人口比率500以上)のは30町丁となっており、逆に夜間人口に比して昼間人口が半数以下(昼夜間人口比率50未満)となるのは41町丁である。

図2、図3は、昼夜間人口比率を数値区分別に色分けして表現したものである。

概観すると、市中心部においては、JR宇都宮駅東大通り-JR宇都宮駅西大通りに昼夜間人口比率の高い町丁が集中している。郊外では、平出・瑞穂野の各工業団地、問屋町、インターパーク5丁目、豊郷台1丁目等で昼夜間人口比率が高くなっている。

また、市中心部、郊外を問わず大規模なマンションや住宅団地が存する町丁では昼夜間人口比率が低い傾向が見られる。

表3 町丁別昼夜間人口比率別構成

昼夜間人口比率	町丁数	割合1(%)	割合2(%)
500以上	30	6.2	38.4
200以上500未満	43	8.9	
100以上200未満	113	23.3	
75以上100未満	100	20.6	
50以上75未満	153	31.5	60.6
50未満	41	8.5	
推計不能(※)	5	1.0	

※夜間人口が0のため

表4 平成22年町丁別昼夜間人口比率

町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
平出工業団地	10,325	22	46,930.8
瑞田1丁目	3,299	16	20,619.8
川向町	1,642	10	16,420.8
馬場通り1丁目	1,876	18	10,423.8
馬場通り2丁目	1,528	17	8,987.5
駅前通り1丁目	1,892	34	5,565.9
陽南1丁目	2,584	68	3,800.0
宮園町	1,135	30	3,784.1
瑞穂3丁目	1,675	46	3,641.0
一の沢1丁目	4,824	138	3,495.6
大通り1丁目	3,181	98	3,246.3
問屋町	1,426	44	3,240.5
豊郷台1丁目	2,020	65	3,107.3
池上町	632	23	2,746.5
大通り2丁目	2,094	90	2,326.1
不動前1丁目	736	38	1,938.1
馬場通り4丁目	667	35	1,905.0
元金原8丁目	874	49	1,783.5
大通り4丁目	1,585	89	1,780.4
本町	2,549	165	1,544.8
東宿郷2丁目	2,978	282	1,055.9
昭和1丁目	810	79	1,024.9
インターパーク5丁目	260	26	1,000.0
中央本町	876	118	742.7
曲師町	497	70	709.5
中央1丁目	898	144	623.5
二荒町	813	137	593.8
松が峰1丁目	566	98	577.8
旭1丁目	2,747	476	577.2
馬場通り3丁目	575	113	509.0
(参考)			
清原工業団地	14,148	0	
インターパーク6丁目	1,174	0	推計不能(※)
インターパーク4丁目	723	0	
西川田4丁目	72	0	

町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
松風台	277	925	29.9
横山3丁目	271	902	30.1
免ノ内町	45	128	35.3
西川田1丁目	208	582	35.8
豊郷台3丁目	365	971	37.6
横山2丁目	334	876	38.1
錦1丁目	215	553	38.9
豊郷台2丁目	891	2,280	39.1
立伏町	1,642	4,158	39.5
横山1丁目	407	1,028	39.6
下河原1丁目	125	297	42.2
下横倉町	46	109	42.2
戸祭台	599	1,417	42.3
越戸2丁目	402	936	43.0
瑞穂2丁目	870	1,995	43.6
東岡本町	767	1,737	44.2
江曾島5丁目	257	575	44.7
江曾島3丁目	378	841	44.9
戸祭3丁目	777	1,719	45.2
富原3丁目	283	625	45.4
清原台6丁目	695	1,505	46.2
兵庫塚3丁目	1,170	2,328	46.3
中久保1丁目	303	653	46.4
目の出2丁目	251	539	46.5
富の内3丁目	445	957	46.5
鶴田2丁目	454	968	46.9
東峰町	2,479	5,271	47.0
さつき3丁目	448	939	47.7
雀の宮2丁目	519	1,080	48.0
清原台2丁目	535	1,111	48.1
富士見が丘2丁目	570	1,185	48.1
大和3丁目	367	761	48.3
鶴田3丁目	146	301	48.4
大網町	51	105	48.5
茂原3丁目	169	348	48.5
兵庫塚1丁目	467	960	48.7
泉が丘2丁目	851	1,738	49.0
平松町	454	920	49.4
五代3丁目	723	1,455	49.7

図2 平成22年 町丁別昼夜間人口比率

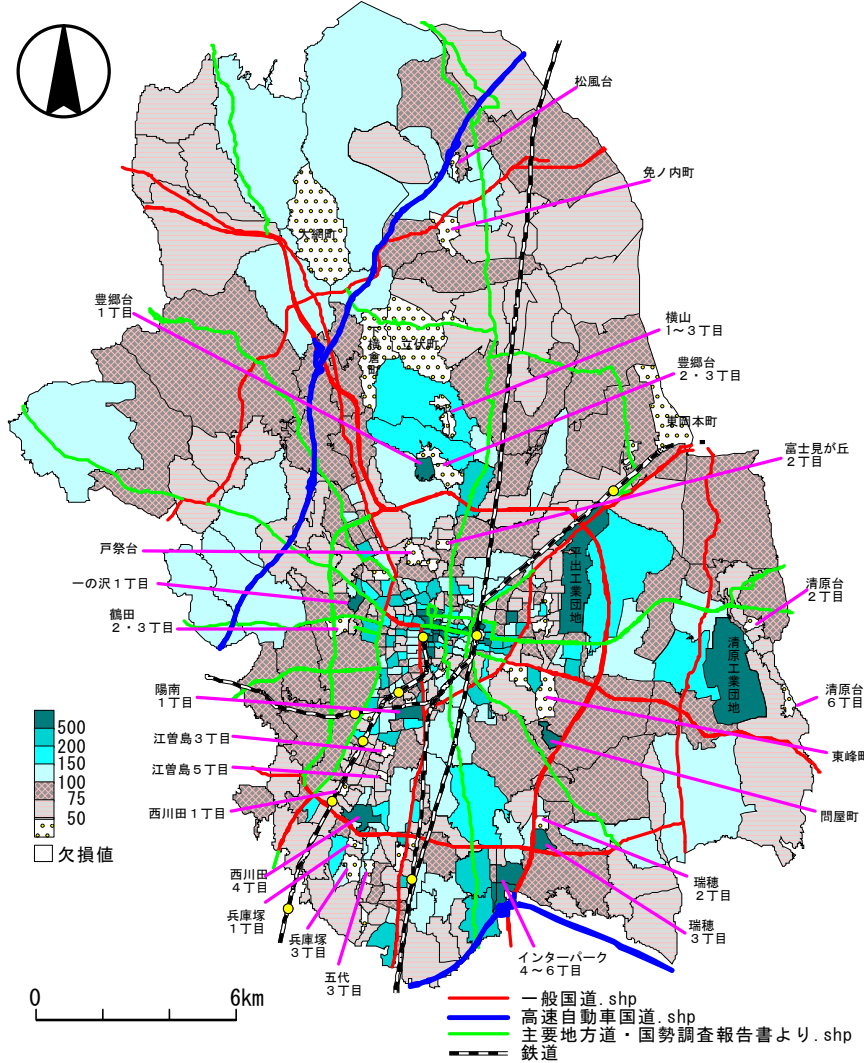
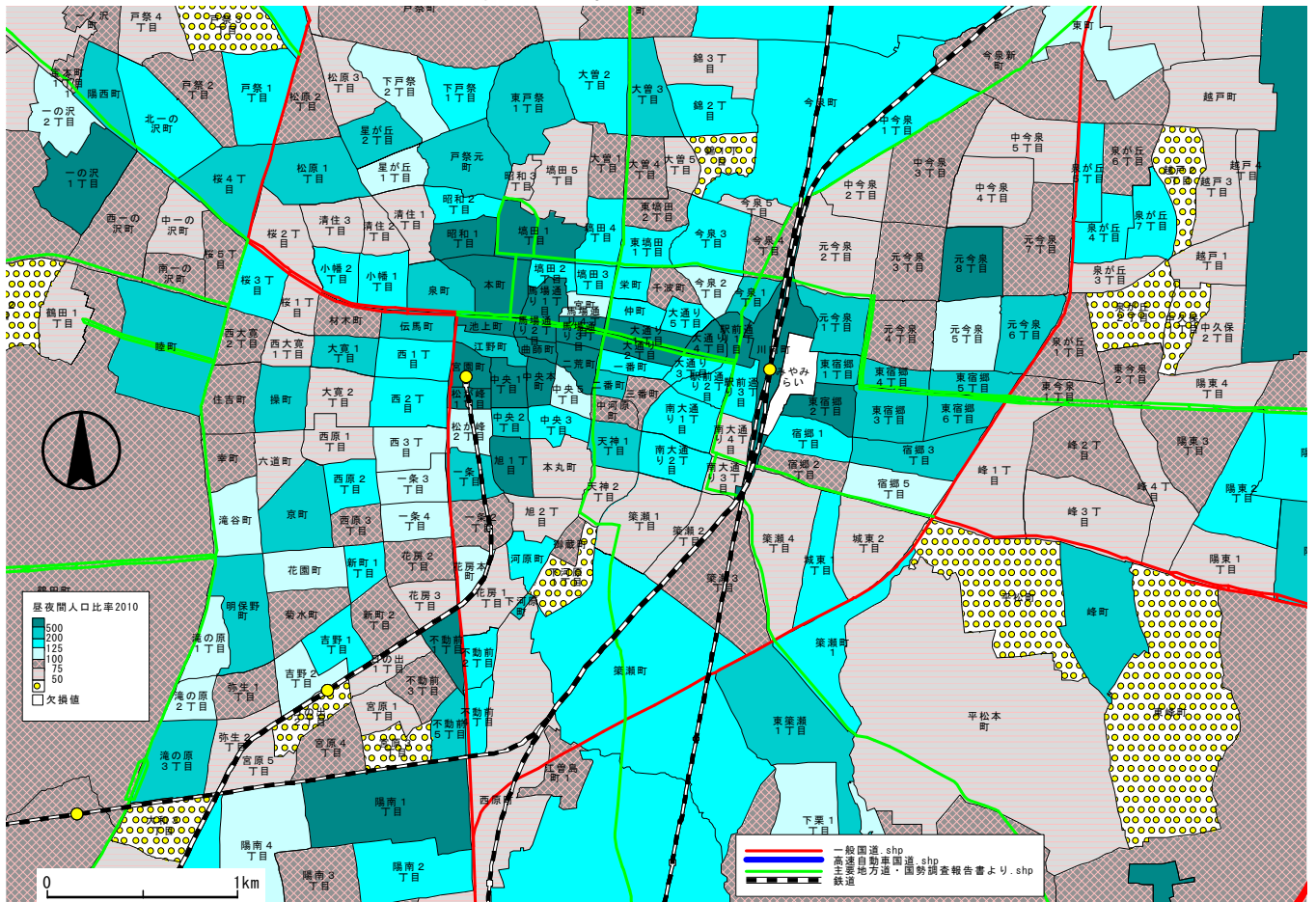


図3 平成22年 町丁別昼夜間人口比率（JR宇都宮駅周辺拡大）





### (3) 推計からみる本市の都市機能分類

昼間人口は、「就業者」「就学者」「未就業・非就学者」の3通りに分類されることは先述のとおりである。昼間人口の構成比によりオフィス街なのか、あるいはベッドタウンなのかといった機能分類がされると考えられる。

全ての町丁を分類するのは紙面上困難であることから昼夜間人口比率が 500 を超える町丁と 50 を下回る町丁について機能分類した。

#### 1) 経済活動・行政機能が集積する区域

表5は昼夜間人口比率500を超える町丁の昼間人口のうち、就業者数と就学者数及び、就業者のうち、構成比が最も高い産業と、その就業者数を一覧にしたものである。

これをみていくと、昼夜間人口比率が高い区域では、特定分野の機能が集積されているといえる。

図2、図3、表5と併せてみると、本市の中心市街地は、行政、金融及び商業機能が集積する一方、郊外では製造業等の拠点機能が集積していることが分かる。

表5 昼夜間人口比率500超の町丁一覧

町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率	昼間人口のうち、就業者数	就業者のうち構成比が最も高い産業(産業大分類)	就業者のうち構成比が最も高い産業の就業者数	昼間人口のうち、就学者数
平出工業団地	10,325	22	46,930.8	10,319	製造業	5,904	0
塙田1丁目	3,299	16	20,619.8	3,292	公務(その他)	2,970	0
川向町	1,642	10	16,420.8	1,632	運輸業・郵便業	612	0
馬場通り1丁目	1,876	18	10,423.8	1,870	サービス業(他に分類されない)	588	0
馬場通り2丁目	1,528	17	8,987.5	1,525	サービス業(他に分類されない)	419	0
駅前通り1丁目	1,892	34	5,565.9	1,878	卸売業・小売業	451	0
陽南1丁目	2,584	68	3,800.0	2,557	製造業	2,058	0
宮園町	1,135	30	3,784.1	1,127	卸売業・小売業	618	0
瑞穂3丁目	1,675	46	3,641.0	1,663	製造業	1,180	0
一の沢1丁目	4,824	138	3,495.6	461	教育・学習支援業	436	4,293
大通り1丁目	3,181	98	3,246.3	2,285	金融業・保険業	744	857
問屋町	1,426	44	3,240.5	1,423	卸売業・小売業	985	0
豊郷台1丁目	2,020	65	3,107.3	129	教育・学習支援業	110	1,875
池上町	632	23	2,746.5	627	生活関連サービス・娯楽業	161	0
大通り2丁目	2,094	90	2,326.1	2,072	金融業・保険業	339	0
不動前1丁目	736	38	1,938.1	725	サービス業(他に分類されない)	248	0
馬場通り4丁目	667	35	1,905.0	647	金融業・保険業	163	0
元今泉8丁目	874	49	1,783.5	94	教育・学習支援業	94	762
大通り4丁目	1,585	89	1,780.4	1,479	サービス業(他に分類されない)	307	76
本町	2,549	165	1,544.8	2,482	サービス業(他に分類されない)	380	0
東宿郷2丁目	2,978	282	1,055.9	2,764	宿泊業・飲食サービス業	599	0
昭和1丁目	810	79	1,024.9	773	情報通信業	356	0
インターパーク5丁目	260	26	1,000.0	260	宿泊業・飲食サービス業	133	0
中央本町	876	118	742.7	663	運輸業・郵便業	353	182
曲師町	497	70	709.5	478	卸売業・小売業	278	0
中央1丁目	898	144	623.5	698	医療・福祉	168	148
二荒町	813	137	593.8	501	卸売業・小売業	158	262
松が峰1丁目	566	98	577.8	526	金融業・保険業	436	0
旭1丁目	2,747	476	577.2	2,562	公務(その他)	2,364	0
馬場通り3丁目	575	113	509.0	531	卸売業・小売業	353	0
(参考)							
清原工業団地	14,148	0		14,148	製造業	11,708	0
インターパーク6丁目	1,174	0		1,174	卸売業・小売業	719	0
インターパーク4丁目	723	0		723	卸売業・小売業	479	0
西川田4丁目	72	0		72	生活関連サービス・娯楽業	69	0

※夜間人口が0のため

2)ベッドタウンの機能に特化した区域

表6は昼夜間人口比率50を下回る町丁の昼間人口のうち、未就業・未就学者数とその割合を一覧にしたものである。いずれの町丁も昼間人口に占める未就業・未就学者の割合が高くなっている。

つまり、その区域内に居住している就業・就学者が区域外に通勤通学する数よりも、区域外に居住する就業・就学者がその区域内に通勤通学する数が大幅に少なく、ベッドタウン機能に特化した区域が多いといえる。

表6 昼夜間人口比率50未満町丁一覧

町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率	昼間人口のうち、未就業・未就学者数	昼間人口のうち、未就業・未就学者の割合(%)
松風台	277	925	29.9	253	91.3
横山3丁目	271	902	30.1	255	94.0
免ノ内町	45	128	35.3	26	57.5
西川田1丁目	208	582	35.8	205	98.5
豊郷台3丁目	365	971	37.6	364	99.7
横山2丁目	334	876	38.1	310	92.9
錦1丁目	215	553	38.9	162	75.3
豊郷台2丁目	891	2,280	39.1	739	83.0
立伏町	1,642	4,158	39.5	1,201	73.1
横山1丁目	407	1,028	39.6	365	89.6
下河原1丁目	125	297	42.2	113	90.2
下横倉町	46	109	42.2	34	73.9
戸祭台	599	1,417	42.3	572	95.5
越戸2丁目	402	936	43.0	349	86.7
瑞穂2丁目	870	1,995	43.6	785	90.2
東岡本町	767	1,737	44.2	671	87.5
江曾島5丁目	257	575	44.7	206	80.1
江曾島3丁目	378	841	44.9	310	82.0
戸祭3丁目	777	1,719	45.2	696	89.5
宮原3丁目	283	625	45.4	270	95.3
清原台6丁目	695	1,505	46.2	513	73.8
兵庫塚3丁目	1,170	2,528	46.3	925	79.1
中久保1丁目	303	653	46.4	259	85.5
日の出2丁目	251	539	46.5	231	92.2
宮の内3丁目	445	957	46.5	403	90.5
鶴田2丁目	454	968	46.9	398	87.7
東峰町	2,479	5,271	47.0	2,081	83.9
さつき3丁目	448	939	47.7	422	94.2
雀の宮2丁目	519	1,080	48.0	413	79.6
清原台2丁目	535	1,111	48.1	450	84.2
富士見が丘2丁目	570	1,185	48.1	483	84.7
大和3丁目	367	761	48.3	353	96.1
鶴田3丁目	146	301	48.4	126	86.5
大網町	51	105	48.5	34	66.8
茂原3丁目	169	348	48.5	112	66.4
兵庫塚1丁目	467	960	48.7	376	80.5
泉が丘2丁目	851	1,738	49.0	661	77.7
平松町	454	920	49.4	293	64.5
五代3丁目	723	1,455	49.7	522	72.2

## 用語の解説

### 昼間人口 と夜間人口

昼間人口とは、従業地・通学地集計の結果を用いて、下記により算出された人口である。

$$\cdot \text{昼間人口} = \text{宇都宮市の常住人口} + (\text{宇都宮市への流入人口} - \text{宇都宮市からの流出人口})$$

しかしながら、従業地・通学地集計では市単位での情報にとどまり、町丁単位での流入流出を算出できない。

したがって町丁別昼間人口はこれに替え、国勢調査結果とともに、平成21年経済センサス基礎調査及び学校基本調査の結果を基に推計したものである。

また、常住地による人口（夜間人口）とは、調査の時期に調査の地域に常住している人口である。

### 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は、常住人口 100 人当たりの昼間人口の割合であり、100 を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100 を下回っているときは流出超過を示している。

$$\text{町丁別の昼夜間人口比率} = \text{町丁別昼間人口} / \text{町丁別夜間人口} \times 100$$

### 就業者

調査週間中、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入（現物収入を含む。）を伴う仕事を少しでもした人。

なお、収入を伴う仕事を持っていて、調査週間中、少しも仕事をしなかった人のうち、次のいずれかに該当する場合は就業者としている。

- (1) 勤めている人が、病気や休暇などで休んでいても、賃金や給料をもらうことになっている場合や、雇用保険法に基づく育児休業基本給付金や介護休業給付金をもらうことになっている場合
- (2) 事業を営んでいる人が、病気や休暇などで仕事を休み始めてから 30 日未満の場合  
また、家族の人が自家営業（個人経営の農業や工場・店の仕事など）の手伝いをした場合は、無給であっても、収入を伴う仕事をしたこととして、就業者に含めています。

### 通学

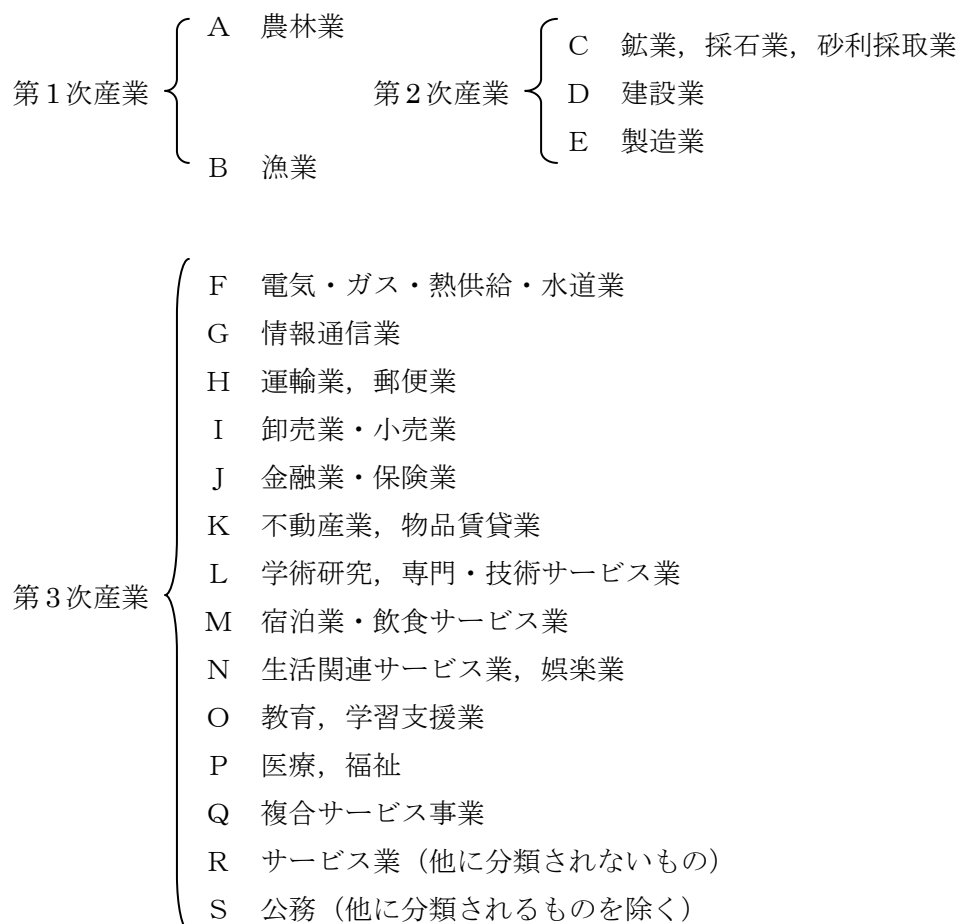
ここでの通学は、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・短期大学・大学・大学院のほか、予備校・洋裁学校などの各種学校・専修学校に通っている場合も含まれる。

## 産業

「産業」とは、就業者について、調査週間中にその人が実際に仕事をしていた事業所の主な事業の種類によって分類したものをいう。調査週間中「仕事を休んでいた人」については、その人がふだん仕事をしている主な事業所の事業の種類。

国勢調査に用いている産業分類は、日本標準産業分類を国勢調査に適合するように集約して編成したもので、分類の詳しさの程度により、大分類、中分類、小分類がある。

なお、産業大分類は次のとおりである。



### 【平成22年変更内容】

平成22年調査の産業分類は、平成19年11月に改定された日本標準産業分類を基準としており、大分類が20項目、中分類が82項目、小分類が253項目となっている。

労働者派遣法に基づく派遣労働者は、平成17年以前の調査では、「労働者派遣業」に分類していたが、22年調査から、派遣先で実際に従事する産業を基に分類している。

《注意点》

1. 仕事をしてきた事業所が二つ以上ある場合は、その人が主に仕事をしてきた事業所の事業の種類によつてゐる。
2. 労働者派遣事業所から派遣されて仕事をしている人は、派遣先の事業所の主な事業の種類によつて分類している。